

始業式からの1か月、あっという間に過ぎてしまいました。この時期になっても暑さはいっています。

子供たちの体調の崩れを懸念してはいますが、おかげさまでみな元気に活動しています。

そろそろ何かに没頭するのによいと言われる気候に移ります。

今回は、読書のススメをこのような文章で表してお伝えしました。

速さの時代に

確かに、スマートフォンをはじめとする現代の文明の利器の普及は、私たちの生活を大きく変えているようです。

少し前、あるテレビ番組で「昔は駅に伝言板があり、どのように使われていたか」を紹介する場面がありました。そのとき若者たちは「信じられない」と驚いていましたが、それを見ていた私もまた驚かされました。なるほど、今ならメールや SNS で「今どこ?」「どれくらいかかる?」と問えば、すぐに解決するからです。

また、「この言葉は漢字でどう書くのか、どのような意味なのか」と分からないときには、ポケット辞典を出して調べるのが常でした。けれども今では、スマートフォンを使えばわずか数秒で答えが出ます。

早く「知れる」に越したことはないのかもしれませんが、それでも「知れる」と「分かる」のあいだには大きな隔たりがあることを、常々心に留めておく必要があると思っています。

随分前のことですが、あるときふと思い立って、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』を幾度目かに読み返したことがあります。あらすじはもちろん「知って」いました。けれどもそのとき初めて、「陽が沈むのを椅子を動かして 44 回も見つめ続けた王子さまの心」がようやく「分かった」ように感じられたのです。

どんなに「知れる」速度が速くなっても、人の「分かる」速度は、今も昔もそう大きくは変わらないのではないかと思います。

さて、何かを「分かつ」とするとき、本はとても温かく、そして頼もしい存在です。

読み急がなくてもよい。いつまでもそこに在り続け、繰り返し同じ情報を語りかけてくれます。そして

て、私たちの心の育ちや状況に応じて、その時その時に合った「分かる」を与えてくれます。

子供たちが本の世界を楽しみ、本の世界に期待し、本の世界を助けとして「分かる」を重ねていけるように。そして、近い将来、子供たちが心を寄せる先に本があるようにと願います。

今月の生活目標は「本をたくさん読みます」です。西小まつりも終わり、ほっと一息。お彼岸を過ぎ、ようやく涼しさを感じられるようになってきました。

『大人が手本となって』——忙しい日々の中ではありますが、私たち大人も子供たちとともに、本を介して「分かる」を愉しんでみませんか。